

Title	小金井博士の人類學研究を読む(二)
Sub Title	
Author	長谷部, 言人(Hasebe, Kotondo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.3 (1926. 7) ,p.122(428)- 122(428)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19260700-0122

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

小金井博士の人類學研究を讀む (二)

長 谷 部 言 人

小金井先生のアイヌ研究について詳細を知るにはドイツ文の報告を讀むがよい。併し大體は本書に收められた數編に盡されてゐる。先生の主張では、同人種は今日生存してゐる種々の人種とその身性を異にし、一つの「人種の島」を形作つてゐるといふのである。このアイヌ研究と同時に石器時代人骨の研究をはじめ、同代人骨に見る特異の性状はアイノに見るところと一致し、たゞこれに於けるよりも遙に高度である。之によりて察するに、石器時代人はアイノであると論ぜられた。前後同説を高唱し、或はこれに反對せるものも多かつたが、冷やかに見て、先生を除く他の人々は證據にもならぬ事柄を云々し、すでに埒を超えてゐるのに氣が付かなかつたと評することもできる。石器時代人に關する論文は併せて本書の一半を占め、その中、明治三十六年三月東京學士會院における講演一篇は所謂コロボツクル説對アイノ説論争最後の辭として有名なものである。その後石器時代人骨が各地から多數發見さるゝやうになつて、そのアイノ骨格に似てゐることは益々確實になつたが、地方によつては幾分之と違ひがあるものも出て來た。そこで先生は一昨年發表の同人骨研究概要中に、既にこの時代において地方的には他人種即ち後に來住した所の人種の混血が幾分あつたかも知れぬと補足された。予は同代人は純アイノではない、わが國土に渡來する以前すでに混血してゐたもので、後わが國土においても混血したと認め、聊か先生と考へを異にしてはゐるが、その差は些少であり、何人よりも先生の所説に推服してゐる。